

## 日本語版造礁サンゴ同定マニュアルの作成

沖縄リーフチェック研究会  
安部 真理子・井口 亮

### Publication of Japanese Coral Identification Manual

Okinawa Reefcheck & Research Group  
Mariko Abe and Akira Iguchi

#### 1. 活動の背景

現在、世界的に危機に瀕しているサンゴ礁の健全度を測ることを目的とする、リーフチェックの調査における重要な測定項目の一つはサンゴの被度であるが、現在の測定項目は「サンゴ」という一つの基準のみで取り上げられ、その種あるいは属の組成などの情報は反映されない形となっている。実際のサンゴ群集の変遷を正確に把握するためには、出来る限り種あるいは属の組成も把握することが理想的である。そのためには、フィールドでのサンゴの同定をできるスキルが必要となる。サンゴの同定資料として頻繁に用いられるのは、「日本の造礁サンゴ類」(西平守孝・Veron JEN) “Corals of the World” (Veron JEN) や、“Staghorn Corals of the World” (Wallace CC) などがある。これらの図鑑は同定の資料として非常に有益である一方で、その情報の多さから、しばしば重要な同定のポイントが分かりづらい場合がある。

#### 2. 活動の目的

上記の問題点を解決すべく、オーストラリアのサンゴ研究者である Zoe Richard 氏 (James Cook University)、Carden Wallace 博士 (Tropical Queensland Museum)、Bette Willis 博士 (James Cook University) は、2007年に従来の図鑑よりポイントを絞ってサンゴの同定を行ないやすいサンゴ同定マニュアル、“Coral Identification Training Manual Version 1” を作成した(写真1)。今回の活動では、このサンゴ同定マニュアル

を日本語に翻訳し、国内のサンゴ同定のスキルの向上に役立てることを目的とした。

#### 3. 活動の結果

沖縄県に在住するサンゴ研究者ら8人の協力を得て、約半年の時間をかけて英語版サンゴ同定マニュアルの翻訳を完了した(写真2)。そして平行して、属

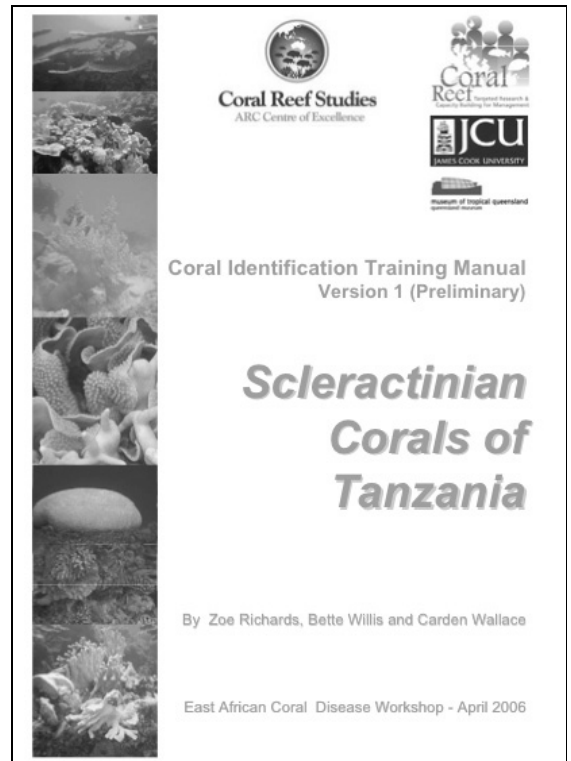


写真1 英語版サンゴ同定マニュアル

レベルでのサンゴ同定を目的とした簡易版マニュアルの原稿も作成した。さらに外部の識者2人に原稿の添削をして頂き、元原稿への反映を行なった。これらの原稿を基に、サンゴの写真を盛り込んだサンゴ同定マニュアルを作成し、オリジナル版(全48ページ)と簡易版(全8ページ)の両方、それぞれ200部、300部の印刷を行なった。また、簡易版マニュアルを用いた勉強会を、那覇NPO活動支援センターにて行なった(写真3)。来年春の大潮の最干潮時に、サンゴ同定マニュアルを用いたフィールドでの実習を行なうことを計画しており、そのための下見を沖縄島の大度海岸で行なった。

#### 4. 今後の方向性

今後は、マニュアルを用いた野外(大度海岸、前田岬など)での実習や、多くのサンゴ骨格が保管されている琉球大学風樹館での実習を行なっていきたい。また、サンゴ同定マニュアルを、ダイバーから研究者まで幅広く配布し、サンゴ同定マニュアル利用者からのコメントを反映させ、沖縄周辺のサンゴの写真を盛り込み、より有用なサンゴ同定マニュアルへと発展させたい。

#### 謝辞

本マニュアルの翻訳を許可して頂いたJames Cook UniversityのZoe Richards氏、Bette Willis博士、Tropical Queensland MuseumのCarden Wallace博士に感謝の意を申し上げます。また本マニュアルの写真の使用を許可して頂いたJohn E. N. Veron博士に感謝の意を示します。また、本マニュアルの校閲を行なって頂いた有限会社海遊の吉田稔様、有限会社コーラルクエストの岡地賢様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また、本活動の助成を行なって頂いたPRO NATURA FUNDに心からお礼申し上げます。



写真2 研究会メンバーによる翻訳作業の様子



写真3 マニュアルを用いた勉強会の様子